

実務研修報告書

平成 24年 3月 31日

所属：明治大学学術・社会連携部

生田図書館事務室

氏名：西脇 亜由子

下記の通り報告いたします。

1.	研修目的	2011年4月発足の JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）事務局における出版社交渉等の業務経験を通じてコンソーシアム活動に関する理解を深め、電子リソース管理・運営に関するコンソーシアムによるサービス提供へ向けた調査・検討を行う。
2.	研修先・研修期間	国立情報学研究所 学術基盤推進部図書館連携・協力室 （大学図書館コンソーシアム連合 JUSTICE 事務局） 平成 23 年 12 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日
3.	研修内容	<ul style="list-style-type: none">・出版社交渉にかかわる業務（交渉協議出席・打合せメモ作成・出版社交渉に係るデータ調査等）・出版社関連団体・NII 事業に関する意見・情報交換への参加・JUSTICE 関連行事の運営・参加・JUSTICE 関連の原稿執筆（実務必携・大学紀要原稿等）・電子リソース管理・運用，コンソーシアムに関する聞き取り調査（名古屋・イギリス）
4.	研修成果	<ul style="list-style-type: none">・JUSTICE 事務局において，実際に出版社交渉協議・打合せに参加し，メモ等の作成により，これまで業務経験がなかった電子資料契約に関する多くの課題・現状について理解を得た。また電子資料契約におけるコンソーシアムの存在意義・重要性を再認識し，各図書館における業務との関連性・大学間の連携協力への問題意識を得た。・JUSTICE 関連行事の運営・参加や出版関連団体・NII 事業に関する情報交換への参加を通じて，現在の国内の大学図書館の電子リソース整備状況や国公立大学全体が直面する喫緊のまた長期的な諸問題（バックファイル整備・電子リソース共同整備・長期保存など）に対して理解を深め，今後各大学での課題と関連させ取組むための示唆を得た。・個別研修のテーマとした「コンソーシアムのサービス拡大，サブコンソーシアムの可能性」に関して，国内の大学に対する電子資料管理・運用に関する聞き取り調査により各大学の現状や共通の課題などを把握するとともに，イギリスの JISC Collections・JISC・SHEDL への聞き取りを行い，イギリスにおけるコンソーシアムの取組み（利用統計提供サービス・サブコンソーシアム）の事例に関して知見を深め，コンソーシアムの将来的なサービス拡大の可能性を検討する機会を得た。
5.	受入体制・研修環境	<ul style="list-style-type: none">・物理的環境は個別の机・端末・備品など，十分に整備されていた。・研修参加以前の時点での研修内容・体制に関する情報提示・連絡は必ずしも十分とは言えず，全般的に実務研修自体に関する各大学へのさらなる広報・周知が今後必要と思われる。
6.	研修を終えて	JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）発足年の事務局での実務研修であったため，組織・体制としても多くの可能性・課題に直面している状況で，これまで全く経験がない電子資料契約に関する出版社交渉業務の経験や，国公私の連携協力の枠組内での業務経験は，今後自分の所属大学での取組みにも大いに活用できると考える。
7.	添付資料	柴田育子・西脇亜由子・藤江雄太郎「JUSTICE 事務局での研修について」 （実務研修生発表会平成 24 年 3 月 23 日（金） 発表資料） 西脇亜由子「コンソーシアムのサービス拡大・サブコンソーシアム形成の可能性—イギリスの事例を参考に」 （実務研修生発表会平成 24 年 3 月 23 日（金） 発表資料）